ADVANTEST

2020年度（2021年3月期）
第1四半期決算説明会

2020年7月30日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

– 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

– 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

– 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

四半期業績推移

（億円）

		FY19				FY20					
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		前期比		前年同期比	
						予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高		659	583	729	907	620	615	-293	-32.3%	-44	-6.7%
売上高		662	716	699	682	700	667	-15	-2.2%	+6	+0.8%
売上総利益		394	410	394	367	-	380	+12	+3.4%	-14	-3.6%
売上総利益率		59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	-	56.9%	+3.1pts		-2.6pts	
営業利益		152	177	142	116	130	135	+19	+16.2%	-17	-11.2%
営業利益率		22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	18.6%	20.2%	+3.2pts		-2.7pts	
税引前四半期利益		149	184	145	108	130	129	+21	+19.2%	-21	-13.7%
四半期利益		121	147	119	148	105	106	-43	-28.8%	-15	-12.7%
四半期利益率		18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.0%	15.8%	-5.9pts		-2.5pts	
M&Aに伴う受注残の増加					+42						
受注残		746	613	643	910	830	857	-53	-5.8%	+111	+14.9%
為替レート	1米ドル	111円	108円	108円	110円	105円	108円	2円 円高		3円 円高	
	1ユーロ	125円	121円	119円	121円	120円	118円	3円 円高		7円 円高	

3 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　2020年度第1四半期の業績概要

- 新型コロナウイルスの拡大がある中、当社ビジネスを前例のない業務環境の中で支えた従業員の努力と、取引先各位、関係各位から頂いたご尽力に深謝いたします。

- ただ残念ながら、１Q実績は受注、売上ともに4月に発表した業績予想を下回る結果となりました。営業利益については経費の抑制により、計画を上回りました。

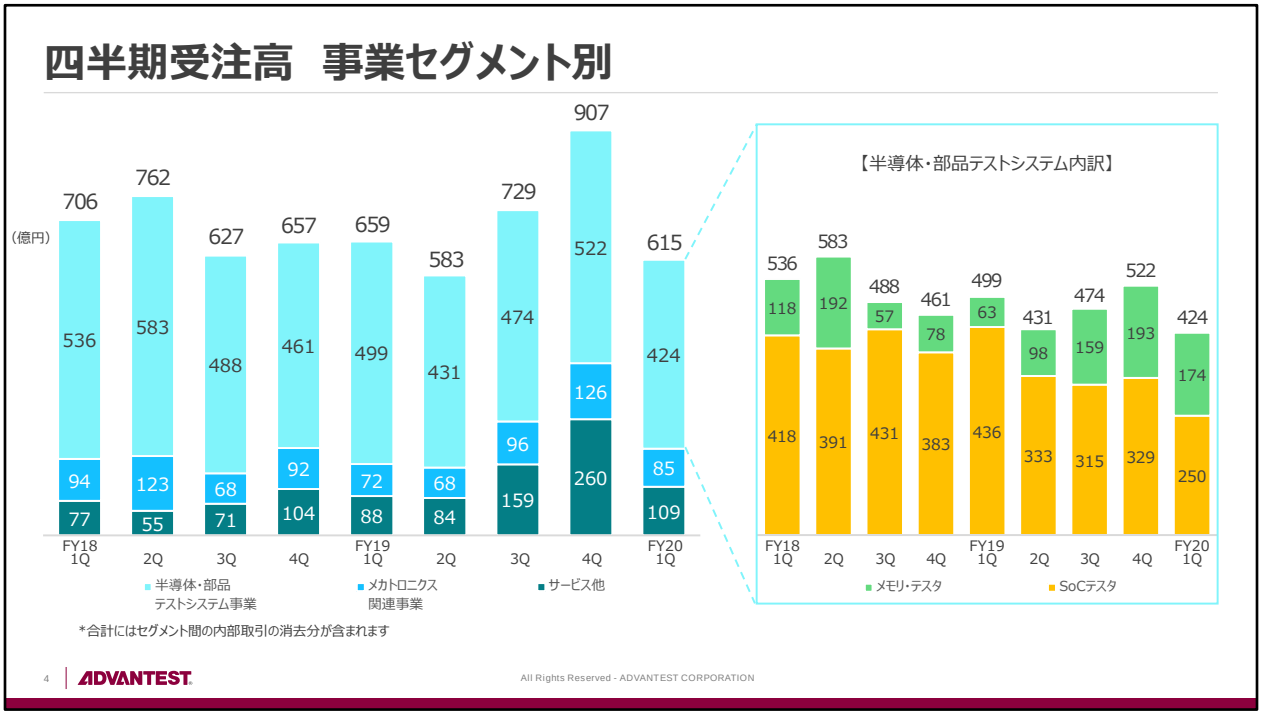
- 新型コロナウイルスの世界的流行の業績影響に関しては、部材の調達面では影響は最小に留めたと言えますが、人的移動制限は一部製品の売上遅延へと影響しました。またスマートフォンなど民生向けの一部で納入延伸要請が生じました。

- コロナ禍に加え、５月に発表された米国による中国企業向けの取引規制が当社事業環境に影響しはじめております。

- コロナ影響によりスマートフォン、車載や産業機器の最終製品の先行き不透明感が強まった上に、中国企業への規制の影響を見極めるために主要OSATの投資姿勢が様子見模様に変わりました。これらによりSoCテスタの需要は想定よりも下振れに向かいました

- 一方でメモリ・テスタではデータセンター向けでの引き合いが強く、想定以上の受注となりましたが、SoCの減少を補いきれませんでした。

- 受注、売上、利益の詳細は、次以降のスライドで順次ご説明いたします。



○　2020年度第1四半期の事業別受注高

○　半導体・部品テストシステム事業

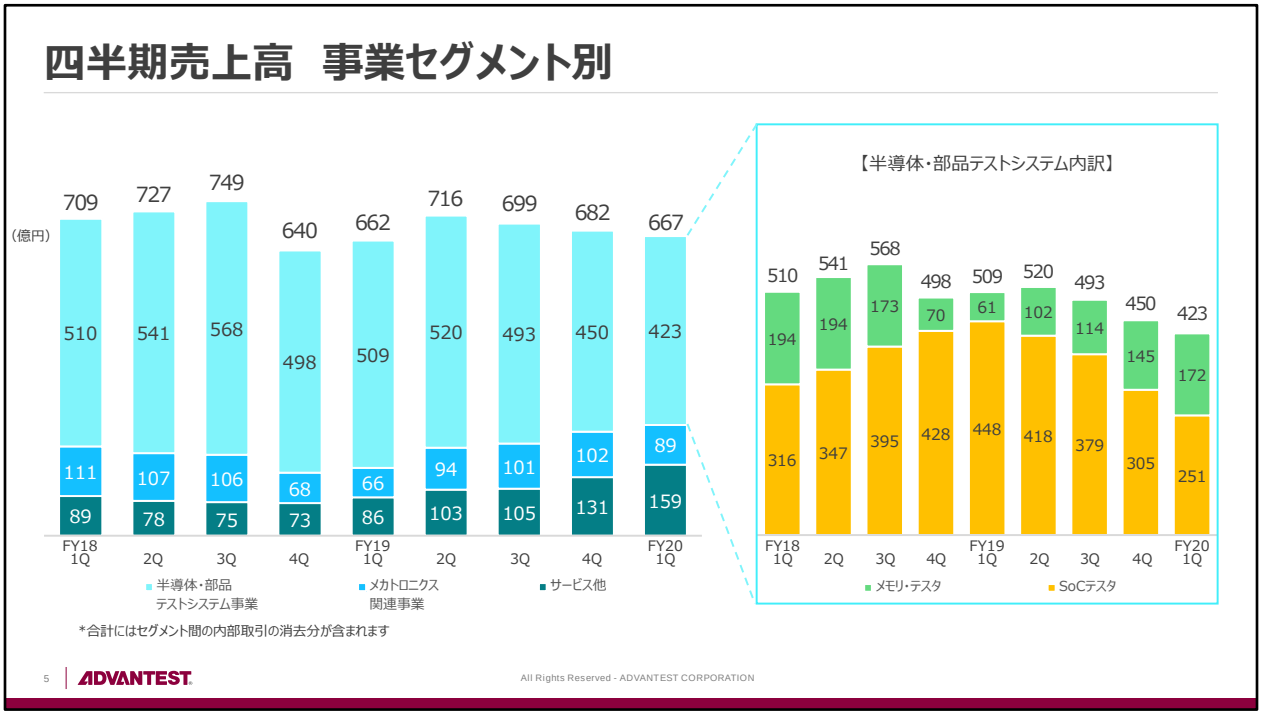
- 前期比 18.8%減　424億円
- SoCテスタは250億円と、前期比79億円の減少となりました。 HPCの需要は旺盛なものの、新型コロナウイルスと米中対立からくるスマートフォン関連顧客の慎重姿勢から、伸び悩みました。
- メモリ・テスタは前期比では19億円の減少ですが、サーバーDRAMを中心に引き合いの強さは継続し、全体で174億円と、前期に受けた前倒し受注を考慮すれば高水準な受注となりました。

○　メカトロニクス関連事業

- 前期比 32.7%減　85億円
- テスタ受注減に連動してメカトロニクス製品の受注も減少しました。

○　サービス他

- 前期比 58.1%減　109億円
- 前期のシステムレベル・テスト関連の大型受注の反動減や、年間保守契約更新の季節性の減少がありました。



○　2020年度第1四半期の事業別売上高

○　半導体・部品テストシステム事業

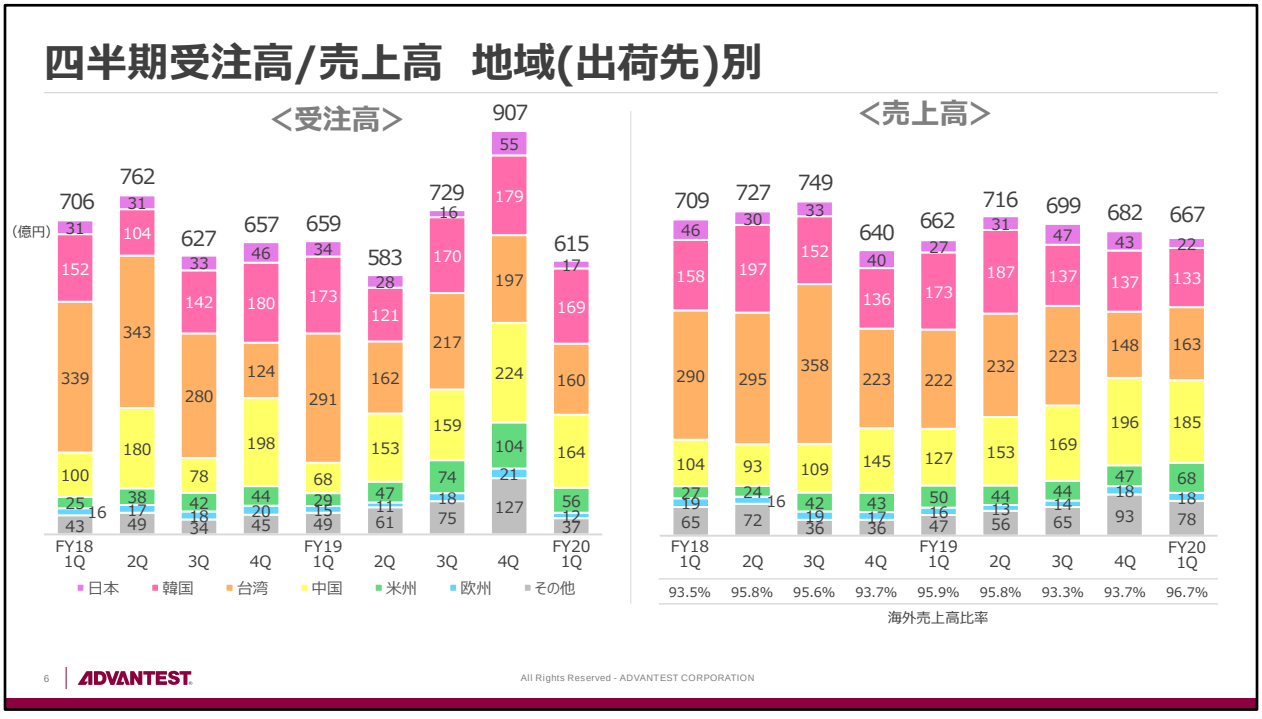
- 前期比 5.9%減　423億円
- SoCテスタは、スマートフォン向けで一部納入延伸要請がありました。
- メモリ・テスタは受注増勢を受けて着実に売上を伸ばしました。

○　メカトロニクス関連事業

- 前期比 13.1%減　89億円
- ナノテクノロジー事業でコロナウイルス影響による設置遅延がありました。

○　サービス他

- 前期比 21.0%増　159億円
- システムレベル・テスト事業の受注残の売上が着実に進捗しました。



○　2020年度第1四半期の地域別受注高

- 中国
  モバイル向けの受注が弱含みました。

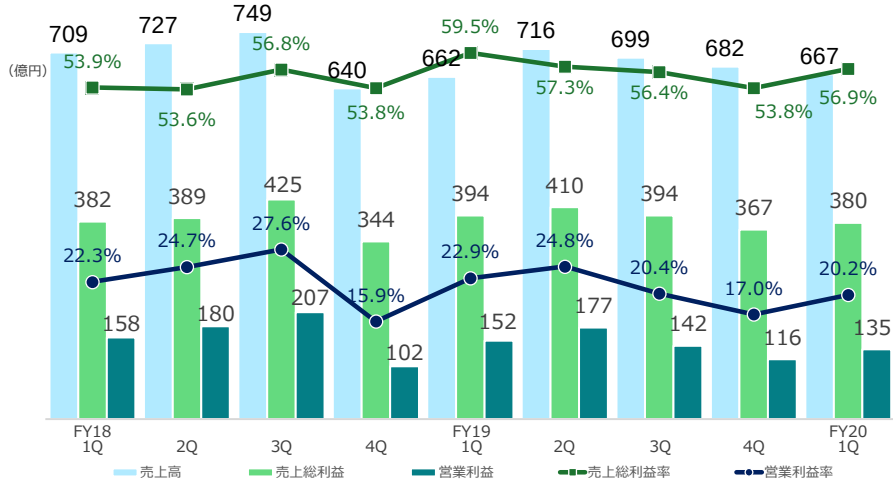
- 米州、その他地域
  米国と東南アジアで、システムレベル・テスト事業の受注が減少しました。

- 台湾、日本
  サービス事業で季節性の減少がありました。

○　2020年度第1四半期の地域別売上高

- どの地域も大きな変動はありませんでした。

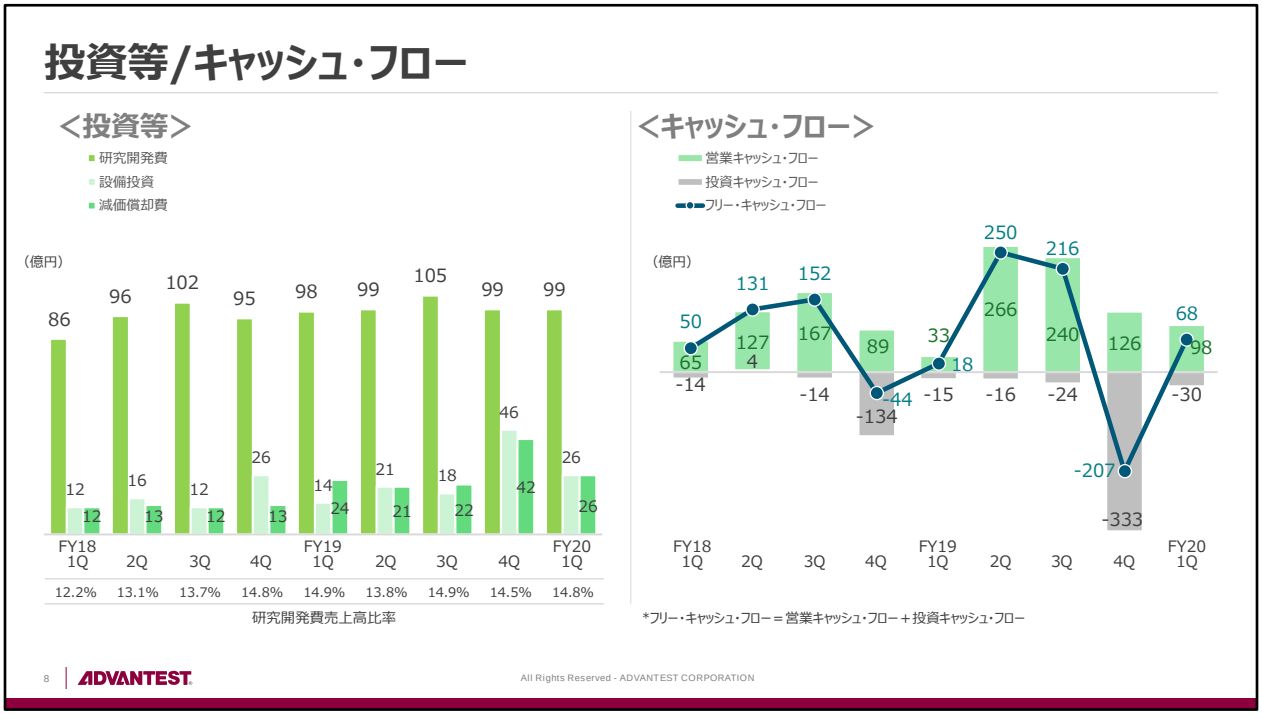
売上高/売上総利益/営業利益



All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　2020年度第1四半期の営業利益

- 売上総利益率　56.9%
  製品ミックスはやや悪化しましたが、1月に買収したEssai社の引継受注残に対する、無形資産の償却費負担が軽くなったことで、売上総利益率が上昇しました。
- 販管費等　　245億円
- 営業利益　　135億円
- 営業利益率　20.2%

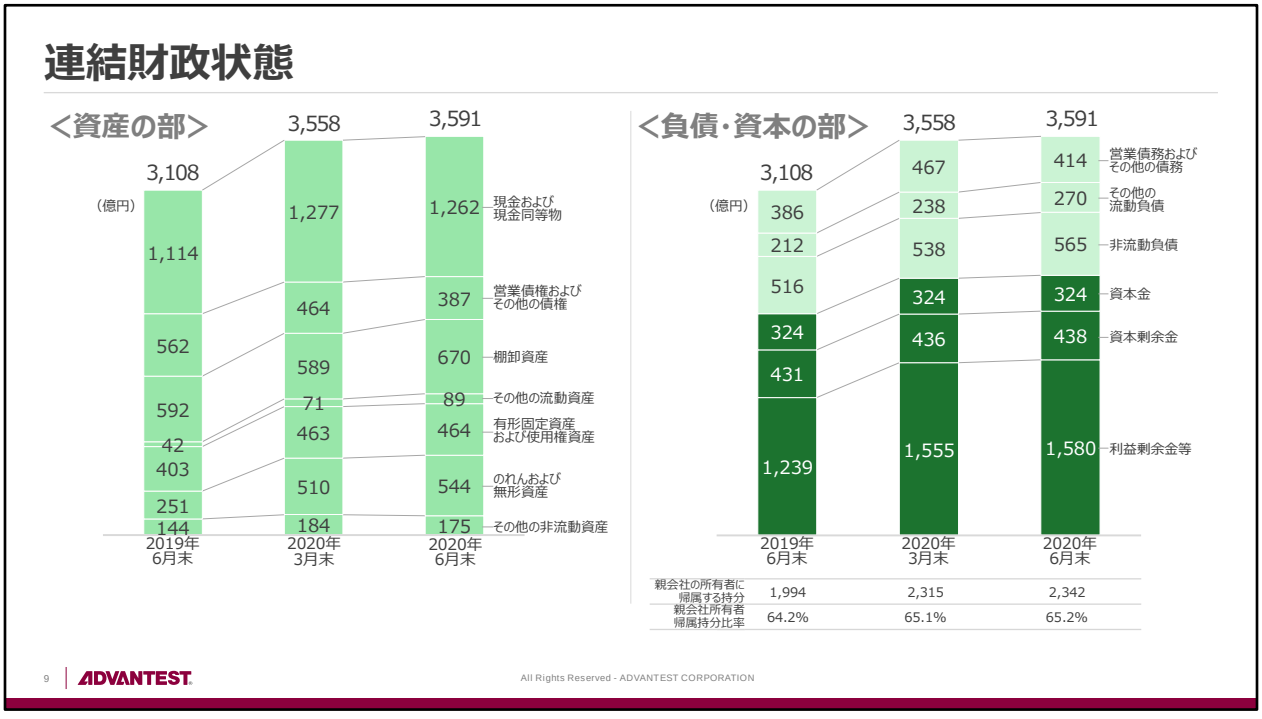


○　2020年度第1四半期の研究開発費等

- 研究開発費　99億円
- 研究開発費売上高比率　14.8%
- 設備投資　26億円
- 減価償却費　26億円
  Essai社買収に関連する取得原価配分作業が1Qで完了し、引継受注残以外の無形資産の償却費も計上開始しています。

○　2020年度第1四半期のキャッシュ・フローの状況

- フリー・キャッシュ・フロー　68億円



○　2020年6月末時点のバランス・シート

- 総資産　3,591億円
- 現金および現金同等物　1,262億円
- 親会社の所有者に帰属する持分　2,342億円
- 親会社所有者帰属持分比率　前年度末比0.1ポイント増　65.2%

2020年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長　吉田　芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST

半導体テスタ市場の動向 <20年7月時点の見方>

CY20予想

–SoCテスタ市場: 前年比縮小を予想

- 米国の中国企業規制強化後、OSATの投資姿勢は大きく変化。スマートフォン全体への減速懸念から、一部機種向けを除きテスタ投資を保留する動きが業界に拡大、先端プロセス品向けのテスタ需要の伸びをオフセット
- 中国企業関連サプライチェーンの変動が落ち着き、テスタ市場が正常化するまで半年から1年を要する可能性も
- 加えてCOVID-19に伴う最終需要減速が、車載向け、ディスプレイ向けなど広範な領域でテスタ需要を下押し

–メモリ・テスタ市場:前年比拡大を予想

- データセンター投資の活況を背景に、DRAM、不揮発性メモリとも、暦年上期は従来想定以上にテスタ投資が進展。暦年下期は一服を見込むも、CY21はメモリの大容量化・高速化進展に伴う一段の市場拡大を期待

	CY17実績	CY18実績	CY19実績	CY20推定
SoCテスタ市場	約$2,200M	約$2,550M	約$2,700M	約$2,400M (1月時点推定:「約$2,700M」)
メモリ・テスタ市場	約$750M	約$1,150M	約$650M	約$1,000M (1月時点推定:「約$800M」)

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 暦年2020年のテスタ市場の見方

- 当社の事業環境についてです。
- 5月発表の米国による中国企業向けの規制強化以後、OSATの投資姿勢が急激に変化しています。データセンター関連需要の半導体生産レベルは高いと推測されますが、ファブレス大手の需要が消失するリスクを前にOSATの投資は当面低迷すると予想されます。
- サプライチェーン変動によって生じうる余剰設備の調整には半年から1年を要する可能性もあると考えています。
- 加えて、コロナウイルスに伴う最終需要減速が、車載、ディスプレイ向けなど、広範な領域でテスタ需要を下押ししています。
- このような状況を踏まえ、SoCテスタ市場のCY20の見通しを、約$2,400Mへと引き下げます。なお当社のSoCマーケットシェアは、顧客ミックスの関係で本年は減少すると見込んでいます。
- メモリ・テスタの方は、CY20上期に、コロナウイルスの拡大に端を発したテレワーク、e-Learningなどの生活スタイルの変容がデータセンター投資を押し上げ、メモリ・テスタの旺盛な受注に結び付きました。CY20下期は需要一服するものの、暦年での見通しを$1,000M近辺に引き上げます。
- テスタ需要の牽引役は、半導体の高性能化に即したテスト強化・信頼性保証の強化という側面は変更がありません。来年以降、5G商用化の拡大、ミリ波の展開、HPC/AI需要の広がりと、テスタ市場は中期的に伸長する傾向と考えています。
- しかし米中経済のデカップリングの帰趨は非常に読みづらく、短期的にはその影響を過小評価することなく慎重に対応する必要があると考えています。

FY20業績予想

（億円）

		FY19	FY20						
		実績	1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	前年度比 増減額	前年度比 増減率
受注高		2,878	615	555	1,170	1,230	2,400	-478	-16.6%
売上高		2,759	667	733	1,400	1,200	2,600	-159	-5.8%
営業利益		587	135	142	277	173	450	-137	-23.3%
営業利益率		21.3%	20.2%	19.4%	19.8%	14.4%	17.3%	-4.0pts	
税引前利益		586	129	142	271	173	444	-142	-24.2%
当期利益		535	106	113	219	139	358	-177	-33.1%
当期利益率		19.4%	15.8%	15.5%	15.6%	11.6%	13.8%	-5.6pts	
受注残		910	857	680	680	710	710	-200	-22.0%
為替レート*	1米ドル	109円	108円	105円	106円	105円	106円	3円 円高	
	1ユーロ	121円	118円	120円	119円	120円	119円	2円 円高	

* 為替レート変動が当社のFY20営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時プラス6億円です。対ユーロはマイナス1.5億円です。

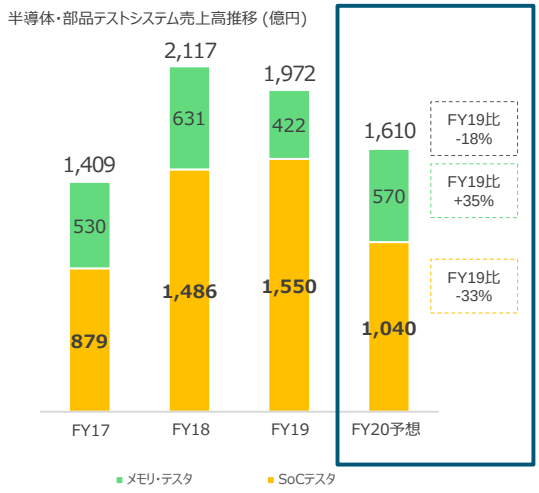
12 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　2020年度の業績予想

- コロナウイルスによる最終需要減退と米中対立を受け、FY20は減収減益を予想します。
- 2Qは、受注高555億円、売上高733億円、営業利益142億円、税引前利益142億円、当期利益113億円と予想しています。
- 通期は、受注高2400億円、売上高2,600億円、営業利益450億円、税引前利益444億円、当期利益358億円と予想しています。
- 先ほど触れました通り、米中対立の影響は過小評価できないと考えており、SoCの需要回復に時間がかかるとみています。
- 2Q以降の予想の前提とした為替レートは、各四半期とも米ドル105円、ユーロが120円です。通期では米ドル106円、ユーロが119円です。
- 受注は2Qをボトムに推移するとみています。
- 売上総利益率は前年度実績56.7%から、53%程度に下がる方向で見ています。Essai社の連結に伴う製造人員の増加、および、ハイエンドSoC向けのテスタ需要低下の影響を踏まえています。
- 営業利益率も前年度比低下する見込みです。ただし、現行の中期経営計画の営業利益目標の17%は達成する見込みです。

FY20見通し（事業別）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスタ>

- 半導体の高性能化トレンドが継続する一方で、米中対立がSoCテスタ顧客の投資意欲に大きく影響
- コロナウイルスの影響による最終需要減衰を反映し、車載、産機、民生用半導体向けの需要も低下
- HPC向けの需要は伸びているが、テスタ市場を下押しする圧力が当面は上回る見込み

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスタ	791億円	1,359億円	+72%
メモリ・テスタ	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,900億円	+66%

13 | ADVANTEST

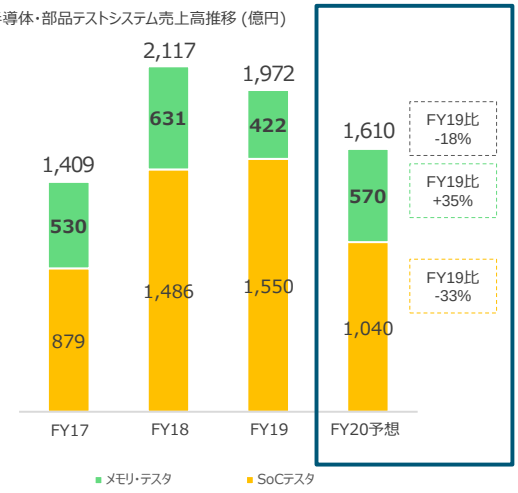
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ SoCテスタ事業の今期見通し

- 半導体高性能化、複雑化、大容量化の技術ロードマップは2020年も順調に推移しています。先端品に関する顧客の投資意欲にも変化はありません。また、米中対立による在庫積み増しといった側面もあり足元での半導体生産には強さがあります。
- しかしながら5月以降、米国の中国企業向け規制の９月本格適用を前にOSATの設備稼働低下懸念が強まり、投資意欲も低下気味です。
- 加えてコロナウイルスの影響による最終需要の減衰から、車載、産機、民生向けのテスタ需要も低迷する見込みです。
- データセンター向け投資の伸びから、HPC向けのSoCテスタ需要は伸びていますが、テスタ需要を下押しする圧力の方が当面は上回る見込みのため、今期は大幅減収を予想しています。
- コロナウイルス影響や中国企業への規制強化で5G関連需要は一旦停滞しているものの、サプライチェーンの落ち着きとともに4Q以降、戻ってくると期待しています。

FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移 (億円)



半導体・部品テストシステム事業

<メモリ・テスタ>

–データセンターの投資回復に加え、COVID-19拡大に伴うWFH対応需要の立ち上がりがメモリ市場を活性化。サーバー用メモリ需要増を通じてテスタ需要を喚起

–FY20下期はスローダウンする見通しだが、前工程投資に伴うウエハ投入枚数増、メモリ性能向上などの好影響がテスト工程へFY21以降波及すると期待

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスタ	791億円	1,359億円	+72%
メモリ・テスタ	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,900億円	+66%

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　メモリ・テスタ事業の今期見通し

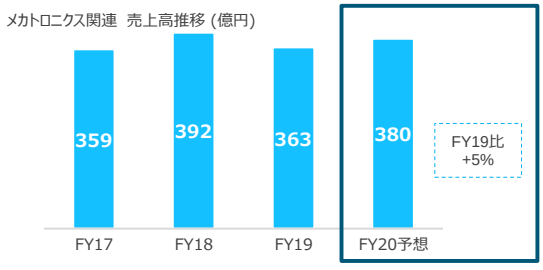
- WFH（ワーク・フロム・ホーム）の常態化が世界各国で進み、データセンター向けのメモリ・テスタ投資が一層活発になったCY20上期でした。サーバー能力増強に対応してDRAMおよび 3D NAND向け設備投資の恩恵を受けました。

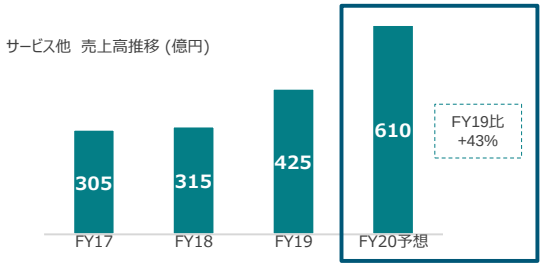
- サーバー向けメモリ需要の一服、およびスマホ需要減速への警戒感から、FY20下期のテスタ売上は若干のスローダウンを見込んでいます。

- データトラフィック量の拡大継続が期待される中、21年以降もメモリ需要の伸びが期待されます。

- DRAMの微細化、LPDDR5とDDR5へのシフト、HPC向け需要の拡大、3D NANDの容量増加など、技術ドライバーと相まって伸びていくメモリ・テスタ需要を、全方位的に取り込んでいきます。

FY20見通し（事業別）





メカトロニクス関連事業

–メモリ・テスタ需要好調に伴い、インタフェース製品中心に前年度比増収を見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
メカトロニクス	309億円	378億円	+22%

サービス他事業

–システムレベル・テスト事業で新規獲得したSoC顧客の売上伸長により、セグメント全体に大幅増収を計画

–フィールド・サービス事業も、顧客内のテスタ台数の増加による底堅い推移を見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
サービス他	300億円	450億円	+50%

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メモリ・テスタ需要の好調に伴い、デバイス・インタフェースの連動増収を見込み、今期380億円の売上高を予想します。
- サービス他事業については、フィールド・サービスで底堅い売上を見込んでいます。また買収したEssai社の連結効果とともに、SoCのシステムレベル・テスト製品ではFY19に新規獲得した顧客向けの売上が大幅増収に寄与します。そのためセグメントの売上高を610億円と予想します。

中長期成長に向けた取り組み

「グランドデザイン」(中長期経営方針・FY18-27)

<ビジョン・ステートメント>
「進化する半導体バリューチェーンで顧客価値を追求」

<経営目標>
「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善（CY17実績:36%→CY27目標:46%）
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

中期経営計画(FY18-20 平均)

	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場　成長率	年0%	**年4%**
売上高	2,300億円	**2,500億円**
営業利益率	15%	**17%**
ROE	15%	**18%**
１株当たり当期利益(EPS)	135円	**170円**

FY20重点施策

- 足元の環境変化に機動的に対応しつつ、長期的な成長に向けた投資を引き続き推進
- 半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化が無い中、重要顧客とのエンゲージメント強化/市場シェアの維持拡大策を進める
  - 5Gのミリ波領域やハイエンド・メモリでのシェア維持・拡大
  - 工場自動化対応など、総合的な品質向上提案によるパートナーシップの強化
- 気候変動への対応などESG経営の高度化

	FY19実績	FY20予想
研究開発費	401億円	410億円
設備投資	99億円	100億円
減価償却費	109億円	110億円

16 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

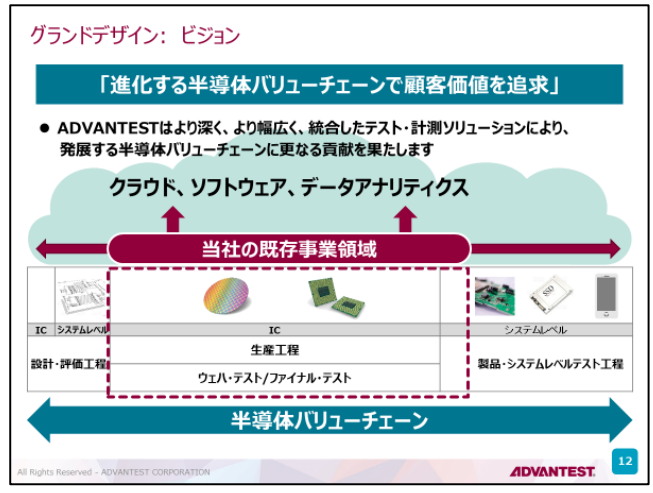
○　中長期成長に向けた取り組み

- 足元の環境の不透明さが続いているため、不要不急な経費に対しては機動的な対応を心がけていきます。
- 一方研究開発費は、一定レベルを保持いたします。21年以降も、半導体の高性能化、高機能化といった顧客のロードマップに変調はありません。
- 当社の総合的な技術力を活かして事業拡大する機会を確保すべく、顧客とのエンゲージメント強化、市場シェアの維持拡大策の深耕を進めます。
- 具体的には5Gのミリ波、HPC/AI 、ハイエンドメモリ、システムレベル・テストなどで、デバイス開発、評価支援への技術サポートを行っています。
- これら現在の取り組みが今後のビジネス拡大につながります。今のところ、そうした将来に向けた基盤強化施策は順調に進捗していると捉えています。

データアナリティクス・ソリューション拡大 -PDF Solutions社との提携-

グランドデザインで描いたビジョン実現のため
半導体業界向けデータ解析ソリューション
最大手・米国PDF Solutions社と提携

- PDF Solutions社のソフトウェアをベースに Advantest Cloud を構築（共同開発）。設計からウェハ/ファイナル・テスト、システムレベル・テストまで一貫した解析環境・プラットフォームを構築・提供
- 両社のソフトウェアを相互販売
- 関係強化のためPDF Solutions社へ出資（約$65M）



(出所：2018年4月公開の中長期経営方針説明資料)

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　データアナリティクス・ソリューション拡大について

- グランドデザインで描いたビジョン実現のため、半導体業界に製造データやテストデータのデータベースプラットフォームとデータ解析ソリューションを提供する最大の企業である、米国のPDF Solutions社（以下、PDF社）と提携、出資することで合意しました。

- この提携により、PDF社の Exensio というデータ解析ソリューションプラットフォームをベースに、Advantest Cloudを共同開発で構築。ICデザインから、ウエハ製造、ウエハテスト、アッセンブリ、ファイナルテスト、システムレベル・テストまでのワークフローを通じたビッグ・データ解析環境を提供するためのプラットフォームを構築します。顧客のデバイスが進化していく中、AI、Machine learningも用いたイールドマネジメント、オンラインモニタリングの環境を提供し、顧客価値を創造していきます。

- 販売面では両社のソフトウェアの相互販売により、リカーリングビジネスのさらなる拡大を図っていきます。

- またPDF社との上記関係をより強固にするためPDF社の第三者割当増資を受け、約9%、$65Mの出資を行います。

- この提携により、ハードウエアのビジネスとのシナジーを追求するとともに、リカーリングビジネスをさらに拡大するための一歩を踏み出していきます。

- 本件は中長期成長に向けた取り組みで、このスライド上の絵にあるクラウド、ソフトウェア、データアナリティクス方面への足掛かりのための戦略的投資です。

自己株式の取得について

現中期経営計画における資本政策

✓事業成長基盤の強化と健全な財務状態の維持のため、中計期間累計で850～1,000億円を目安としたフリー・キャッシュ・フロー創出

✓安定した事業活動を担保するための適正現金保有レベル：500～600億円

✓超過資金についてはM&A、研究開発、設備増強等の、成長に向けた投資を優先。中計期間累計のM&A投資枠：1,000億円

✓株主還元については半期連結配当性向30%を基本とし、1株当たり利益の成長を通じて配当水準を向上するという方針を継続

✓長期にわたって余剰資金が留保される場合は、成長投資見込みを勘案しつつ、配当性向の見直しや自己株式取得等の総株主還元を機動的に検討

– 上記方針にのっとり、現状の現預金残高、中長期的な成長投資の進捗動向などを鑑みつつ、資本の効率的な活用の推進およびストック・オプション（新株予約権）行使に充当することを目的に自己株式を取得

- 取得し得る株式の総数：250万株（上限）（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：1.3%）
- 株式の取得価額の総額：150億円（上限）
- 取得期間：2020年7月31日～2020年10月30日

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○　当社の資本政策

- ここまでの2年3か月、想定以上の業績拡大に支えられ、フリー・キャッシュ・フローについては当初の見込みを超えるペースで推移しました。
- その結果としての手元資金の水準、成長投資の見通しや外部環境の状況などを踏まえまして、この度、資本効率向上を目指して自己株式の取得を実施いたします。
- 取得した自己株の一部はストック・オプション行使に充当しますが、主目的は資本効率改善を企図するものです。

サマリー

- コロナウイルスによる最終需要減退と米中対立の激化を受け、FY20は減収減益を予想
- 特にSoC半導体テスト顧客の今後に不透明感が強いが、当社の成長を牽引する半導体の高性能化・信頼性強化の流れも強固
- 中長期成長の柱となるコアビジネスにおいて、5G、RF、メモリなど期待領域における基盤強化施策は順調に進捗
- 同じく中長期的な見地で進めている周辺領域への展開については、ここ2年M&Aで強化してきたシステムレベル・テスト工程に加え、新たにクラウド・データアナリティックス領域にも拡大
- 資本効率向上のため、自己株式を取得

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ サマリー

- コロナウイルスによる最終需要減退と米中の対立の激化を受け、FY20は減収減益を今のところ予想します。
- 特にSoC半導体テスト顧客の今後に不透明感が強いですが、当社の成長を牽引する半導体の高性能化・信頼性強化の流れも強固だと捉えています。
- 中長期成長の柱となるコアビジネスにおいて、5G、RF、メモリなど期待領域における基盤強化施策は順調に進捗しています。
- 同じく中長期的な見地で進めている周辺領域への展開については、ここ2年M&Aで強化してきたシステムレベル・テスト工程に加え、半導体のテストデータを活用したクラウド・データアナリティクス領域にも展開していきます。今回はＭ＆Ａでなく、パートナーリングという形での技術補完・強化になります。
- 資本効率向上に向け、自己株式取得を実施します。

ESG・外部評価関連トピックス

- VLSI research社の顧客満足度調査にて全SPE中、第1位を獲得
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明
- MSCI ESGインデックス 日本株女性活躍指数銘柄に採用（WIN、セレクト）
- COVID-19 および 令和2年7月豪雨災害など、各国で寄付を予定

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ ESG/外部評価関連トピックス

- 最後に、1月以降の当社ESG・外部評価関連トピックをご参考として掲載しましたので、ご覧ください。
- VLSI research社の顧客満足度調査にて全SPE中、第1位を獲得しました。
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明しました。
- MSCI　ESGインデックス　日本株女性活躍指数銘柄（WIN、セレクト）に採用されました。
- 最後にCOVID-19および令和2年7月豪雨災害などに関連して、各国で寄付を予定しています。また被災された方々にお見舞い申し上げます。COVID-19で日本も大変な状況が続いていますが、医療関係者をはじめ日々努力されている方々に厚く感謝いたします。